

寺族会報

第 33 号

発行 平成30年12月

発行者 曹洞宗宮城県宗務所寺族会

仙台市泉区市名坂字檜町169-4

曹洞宗宮城県宗務所内

電話 022-218-3801



受け継ぎ繋いで

曹洞宗宮城県宗務所寺族会

会長 北村 郁子



地球温暖化・世界的異常気象が起きている中、七月初旬の西日本豪雨、十月の北海道胆振東部地震により、お亡くなりになられた方々には心よりご冥福をお祈り致しますと共に、各地で被災された方々にお見舞い申し上げます。被災地におかれましては、一日も早い復旧復興されます事をご祈念申し上げます。

平成三十年度寺族会総会・宗務所集會・研修会は皆様のご協力により無事終了致しました。有り難うございました。

昨年五月よりお役目を引き継ぎいたしました。一年半が経過し、理事方々事務局と心一つにして活動して参りました。

研修会や学習会、又管区寺族研修会参加と積極的に取り組み研鑽できました事は、今後の寺院生活を考える良い機会になりました。防災士齋藤幸男先生には、体験からの教訓「災害等『まさかの時』に備える心」を学び、参加者は防災意識の向上につながったと思います。学習会での長谷川俊昭青年会会長のご講話では「サンタピアップみやぎ活動報告」と、「奉仕・ボランティア活動の基本理念」を学び、又、教育支援活動においては、先輩方が築かれたカンボジア難民救済活動が源流となり、継続事業として定着した事は、

青年会の皆様の地道な努力の結果と実感致しました。感謝の念でいっぱいです。

さて、任期数ヶ月を余すところとなり、寺族会設立三十五周年を迎えるにあたり事前準備を進めているところです。重みのある歴史の中でも先輩方が特に尽力された事の一つに、管区寺族会設立があり、その種を蒔き、研修会開催に到る成長をとげ今年第二回研修会へと発展し、その功績には敬意を表します。寺族会活動においては、宗務所長様、教化主事様、各主事様、宗務所の皆様のご指導、深いご理解を頂き、又会員方々のご理解と惜しみないご協力は、役員一同にとりなんと心強い支えとなり、地に足がついた活動をさせて頂きました。心より感謝申し上げます。

寺族の資質向上は、自己研鑽を重ねる事により深い知識、信仰心の深まりにつながり、お檀家さんへの繁栄となり、共に寄り添い「お寺に来ると

ホットするね。お茶っこ飲んでいってー」と語り、笑い合い、(梅花講・年中行事・お稽古事等)のそのような場でありたいと願っております。理事の皆様、事務局一同、共通認識を持ち、目的意識を高めながら、まだまだがんばって、楽しく活動してゆく所存です。二年間本当に有り難うございました。深い感謝を申し上げます。

会報誌発行においてご寄稿下さいました皆様に心より御礼申し上げます。

合掌



挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長

三田村 道 雄



平成最後の年末を迎えまし
た。

寺族の皆さまにおかれまし
ては、常日頃、住職様ととも
にお寺を守り、「思いやりの
心」で檀信徒の皆様にして
おられることと拝察いたしま
す。

この度、任期満了に伴う宗
務所長選挙におきまして、県
内ご寺院様の深いご理解とご
支援をたまわり、十二月十一
日より、所長の任に就かせて
いただきました。

不肖もとより、浅学菲才の
身、その任の重さに、身の引
き締まる思いでございます。
何卒宜しくお願い申し上げます。

曹洞宗寺族規程（寺族の任
務）において、「寺族は、本
宗の宗旨を信奉し、住職（兼
務住職、代務者及び特定代務
者を含む。）に協力し、とも
に寺門の興隆、住職の後継者
の育成及び檀信徒の教化につ
とめなければならぬ。」と
記されております。

現代社会は少子高齢化・過
疎化・核家族化等の変化にと
もない、寺院においては、世
代間における檀信徒の結びつ
きや地域における結びつき等
様々な問題をかかえておりま
す。

寺族としての立場はもちろ
ん、時には妻として、母とし
て、ある時は嫁という立場に
おいて、檀信徒並びに地域の
皆様の気持ちに寄り添い、相
手の立場に立って考える「思
いやりの心」で、お寺に來ら
れた方に接することが大切と
考えます。

寺院は、檀信徒の布教教化
はもとより、人の抛り所です。
寺族は、ご住職とともに寺
院運営、教化活動、そして後
継者育成等、重要な関わりを
もっています。

寺族同志で話し合いができ、
地域ごとの情報も共有された
り、研修を踏まえての学びの
場が寺族会であると思えます。
教区・県・東北・中央と情
報共有する場が広められてい
ます。

今後、寺院における寺族
の役割は大なるものがありま
す。
健康に留意され、各寺院の
護持並びに檀信徒の教化活動
にお力添えをいただきますよ
うお願い申し上げます。

合掌

良き人に近づき、

善縁にあふて

同じ事をいくたびも、

聞き見るべき也

『正法眼蔵随聞記』六

平成二十九年第二回学習会

「仏像講座 続編」

平成三十年二月十三日
宗務所において

仏像に親しむ

第七教区 泉永寺寺族 須藤 幸恵



今回の研修のテーマは「仏像講座 続編」でした。講師の先生は前回の講座で講話を頂いた東北福祉大学の門脇佳代子先生でした。

前回は仏像の伝来、種類、材質のお話でしたが、今回の講座では、釈尊の十大弟子像と一仏両祖像についてのお話でした。十大弟子については、十人の弟子達についてそれぞれどのような人物で、その超人的な能力や、逸話についてのご説明がありました。印象に残ったのは、お盆のいわれにつながっている目鍵連尊者

についてのお話で、地獄で苦しむ母を救い出すなど神通力に優れていたなどのお話でした。また、釈尊の従弟で居眠りをして叱責されたのを反省し眠らずに坐禅をした結果、失明したという阿那律尊者のお話でした。講師先生からは大迦葉尊者についてのお話もありましたが、この方については寺に帰ってから、この学習会について住職と話をし



て分かったのですが、御詠歌の正法御和讃の「花の農に片微笑みく」の歌詞の部分は、釈尊がある日の説法の席で弟子達に向かって無言で花を示されたとき、ただ一人だけが意味を悟ってにっこりと微笑んだという「拈華微笑」の逸話に出てくるのが大迦葉尊者だということが分かったり、自分なりに新しい発見がありました。

実際の仏像の説明についてはプロジェクトを使って、芹沢銈介氏作の紙本漆型絵染「釈迦十大弟子尊像」を参考に各十大弟子の特徴について実際の木造の仏像写真と比較をしながら、姿やそれぞれの持ち物などについて、私にも理解できるように丁寧なご説明がありました。

残念ながら私がお寺では、十大弟子の像はありませんが、以前、棟方志功作の

「釈迦十大弟子二菩薩」の作品を見たことがあり、少し興味がありましたので今回の学習会はちょうど良いご縁に巡り会ったような気がいたしました。

前回は如来、菩薩、明王、天と人間界を超えた存在のお話もありましたが、今回の十大弟子像はそれぞれがとても表情豊かで、本当は私たちより遙かに仏に近い存在のはずなのに、その表情からは人間らしさがにじみ出ている、より身近な存在に感じられました。

この学習会を通じて、今まではあまり意識しなかった仏像の存在が、より意識する対象となったように思います。今回の学習会に参加して本当に良かったと思います。ありがとうございました。

合掌

「釈迦十大弟子尊像」の人物像を学んで

第八教区 龍泉院寺族 佐々木 直子



雪がまだかなり積もっていた二月十三日、平成二十九年第二回学習会が開催されました。

今回のテーマは「仏像講座続編」十大弟子尊像についてでした。

講師の先生は東北福祉大学の門脇佳代子先生でした。

染物作家である芹沢銈介先生のお話は非常に興味深いものでした。釈尊の高弟である十人の弟子達一人一人の特徴を、先生の作品では見事に表現されています。

そもそもお釈迦様以外の仏像を観る際に、そのモデルとなった人物を理解した上で鑑賞するということがなかった私には、人物像にまで及んだ先生のお話は新鮮でした。知識があるのとないのでは仏像を観ての感じ方ももちろん

異なります。

今後は事前に学習してから、仏像を観に行こうと思いました。

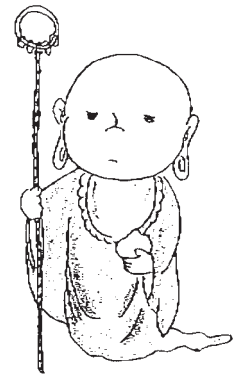
さて、寺族研修会には何回か参加させて頂きましたが、参加する度に皆様の勉強熱心に驚かされます。

私はと言えば、お寺に嫁いで二十数年が経過したにも関わらず、家族に甘え、お寺の事は任せきりでした。しかし、いつまでもそのような姿勢ではいけません。

今後は寺族として少しでも檀家様のお役に立てるよう精進していきたい所存でございます。合掌



お地藏さま



◆名前 地藏菩薩

◆本名 クシテイガルバ

◆名前の由来

「クシテイ」は大地、「ガルバ」は胎内。大地がすべての命を育むように、人々を無限の慈悲で包み込むという願いを表しています。

◆好きな言葉

一斉衆生済度の請願を果たさずば、我、菩薩界に戻らじ

◆特徴

地味な衣装を好みます。菩薩の仲間では珍しく、アクセサリーはほとんど着けません。

如意宝珠（願いを叶える宝の玉）や錫杖を持っている

ます。困っている人がいた時にすぐに駆け付けられるように、大抵の場合は立っています。

◆現住所

欲界にある須弥山の上の方にある忉利天。ただし外出多し。

◆担当

お釈迦さまが亡くなった後、五六億七千万年後に弥勒菩薩がやってくるまでの間、この世に仏さまがいなくなってしまうため、その間、迷いや苦悶を抱える人々を救うために世界中を歩き回っています。人間界だけではなく、地獄や修羅の世界にも出向きます。子どもが大好きです。

◆モットー

最も弱い立場の人々を最優先で救済します。

◆真言

おん かかか
びさんまえい そわか

「寺族研修」第38号より

平成三十一年度第一回学習会

「サンタピアップみやぎボランティア会について」

平成三十一年九月二十八日
宗務所において

尊い宮曹青のボランティア活動

第一教区 福聚院寺族 伊 達 れつ子



去る九月二十八日、宗務所において第一回学習会が開催されました。講師は宮城県曹洞宗青年会会長、耕徳寺住職長谷川俊昭師であります。青年会は本年創立五十周年を迎え、その間カンボジア難民に衣類を贈る活動もしてきました。平成五年にSVA（シャンティ国際ボランティア会）と提携しカンボジアの教育支援を行う（小学校建設寄贈）サンタピアップみやぎボラン

ティア会（カンボジアのクメール語で平和の意味）が設立されました。今回は、その活動内容のビデオを鑑賞しました。カンボジアは一九七〇年より二十二年間内乱が続き、特にポル・ポト独裁政権は政治・文化教育・宗教に関わる人々を含め二百万人の人命を奪い、内乱後十八才未満の子供は人口の八十九%を占める結果となりました。現政権は、国の再生と平和を願って未来を担う子供達の教育に国際協力を求めました。サンタピアップみやぎボランティア会では二十五年前から一校また一校と小学校建設に力を注ぎ、今年

の三月、十九校目に当るトゥール・クラサイン小学校の贈呈式に臨みました。カンボジアの青い空、国民の九割が仏教徒、子供達のコンニチワの明るい挨拶と合掌の姿。学校代表のチュン・スライ・ポムさんの「一棟三教室・四個室付トイレ・三千ℓ入る貯水タンク・文具と仏陀の祠」の寄贈に精一杯の感謝と希望の言葉をのべていました。今まで寄贈した校舎は各地区で修繕がなされているとの事です。今年の九月、サッカー日本代表の本田圭佑氏がカンボジアサッカーチームの監督となり、文化教育・世界遺産を世界にアピールするとの事。ボランティア会で贈ったサッカーボールも子供達に大きな夢をもたせる事でしょう。サンタピアッ



プのこの活動を成す為に書き損じハガキ・未使用切手の収集、写経用紙販売・チャリティバザー開催・募金活動等を行っています。寺族会も尚一層の協力をする事を確認し万雷の拍手をもって閉会しました。

合掌

宮曹青の国際協力活動に感動

第二十一教区 安養寺寺族 小石川 智恵子



今回の学習会は、青年会会長の耕徳寺長谷川俊昭師による「サンタピアップみやぎボランティア会について」お話しいただきました。

サンタピアップ？ 書き損じハガキを集めてカンボジアに小学校を寄贈している活動ねと、何気なく本堂の片隅に、回収の箱を置いていました。

始まりは、約四十年前に、ポル・ポト政権の支配によりカンボジアに難民が発生した時代に、曹洞宗難民救済会議がキャンプ視察し、宮城県曹洞宗青年会が衣類を支援しま

した。難民キャンプ閉鎖後「サンタピアップみやぎボランティア会」が設立されました。

戦後のカンボジアは、壊れた学校校舎の修理も出来ない。若い人が少なく先生のなり手がいない。教材も不足。そのためにも現在でも五人に一人は字が読めないそうです。

宮曹青は、カンボジアの教育支援団体SVA(シャンティ国際ボランティア会)との協力のもと、チャリティーバザー・カンボジアフェア・書き損じハガキなどの収益金で、今年で十九校目の小学校校舎を寄贈し、三月の開校式には、青年会の代表の方々が出席され、まだまだ支援を続けていかな



ければと思います、帰国したそうです。
これまでの長谷川会長はじめ事務局、青年会の皆様のおかげで素晴らしい活動に少しでも協力できればと、心が熱くなりました。
輝ける瞳の子供たちへ、一枚の書き損じハガキからのボランティアを気付かされた、とても有意義な時間でした。

合掌



宮城県宗務所寺族会総会・懇親会報告

(平成三十年五月十日・十一日) ― ホテルニュー水戸屋 ―

蘇った記憶と寺族としての立場

第四教区 高林寺寺族 牧野 久美子



新緑の鮮やかな時節、平成三十年五月十日～十一日秋保温泉ホテルニュー水戸屋に於いて曹洞宗宮城県宗務所寺族会総会が開催され、百十二名の会員が参加されました。

緊張の中、議事進行の議案が原案通り可決されました。

さて、懇親会では緊張がほぐれ、和やかに歌や舞踊と役員の方々の盛り上がりもあり、拍手喝采で楽しい時間を過ごしました。

手話を交えた復興支援ソング「花は咲く」を合唱しながら、七年余り前の東日本震災の記憶が色褪せもせず蘇ってきました。

その当時命こそ助かりましたが、境内の膨大な量の瓦礫を前に「やるしかない」と、泥まみれで一生懸命作業いたしました。

たくさんの方々に支援を受け、また励ましの言葉をいただき、心の支えとなりました。墓地の清掃に来た檀信徒の方が、集団移転を決める理由は「同じ地区の人たちなら挨拶や会話があり、関わることができるから」などいろいろ



ろな悩みを打ち明けてくれました。笑顔で話しかけ、コミュニケーションをとることが大切と改めて感じました。今回の総会に参加して、寺族の立場を再認識する機会を得ることができました。

宗務所の皆様、そして県寺族会の役員皆様に感謝を申し上げます。

合掌

ばつだばらぼさつ
跋陀婆羅菩薩



◆名前 跋陀婆羅菩薩
賢護大士

◆本名 バドラーバーラ

【名前の由来】

跋陀婆羅はバドラーバーラの音そのまま漢字に当てた音写語です。善守と訳されて、善は賢の意味も持つため、賢護大士とも言われています。

【好きな言葉】

沐浴身体 当願衆生
身心無垢 内外光潔
(意味) 今、入浴するにあたり、まさに願うことは、

寺族会総会に参加して

第十九教区 普門寺寺族 坂野 晴美



当日はあいにくの雨となりましたが、雨もまた皆様の明るい会話に弾みを持たせてくれる、力強い味方となりました。

参加された方々は、家事やお寺のお仕事を手際よくさばかれてから、参加の運びになった事と忍ばれます。私も、その緊張感と皆様とお会いする嬉しい気持ちに背中を押され出席となりました。

今年は総会の議事進行、又記念撮影の案内、研修会の運び、懇親会とすべて滞りなく、気持ち良く終る事が出来

ました。これも事務局の方々のご尽力と感心致しました。ただひとつ残念だったのは、私事ですが自分達の教区の参加が少なかつた事です。総会よりも内容が濃く、特に二日目のお釈迦様のお教えのお話はとても興味深く、初めてお釈迦様を身近に感じられる驚きの内容でした。それを他の会員の方々にも聞いて欲しかったと、とても残念に感じました。

安心感、充実感、そして心地良い疲労感を持ちつつ、笑顔で皆様と別れ暖かい気持ちで帰路につきました。

合掌



皆が身体の汚れもなく、内も外も清潔になりますように。

【特徴】

出家僧の姿、または菩薩の姿であったり、一般在家の居士の姿であったりします。

【現住所】

浴室の入り口

【担当】

浴司よくす（浴室）を守っています。

かつて、入浴の際に「水」によって悟りを開いた因縁により、祀られています。

【モットー】

すべてをありのままに観るという「智慧」を最も大切にしています。

「寺族研修」第38号より

研 修 会 I (人権学習)

平成30年5月10日 ホテルニュー水戸屋

講師 防災士

齋藤幸男先生



私達は、津波の衝撃映像に固唾を飲み、写真、ビデオで生徒達の明るく前向きな姿に胸を打たれ、先生の壮絶な経験から紡ぎ出された重く情熱のこもった言葉に聴き入りました。

一部を紹介してみます。

被災者が必要としたのは、水と食料と正確な情報でしたが、避難所は経験のない人達が集ま

平成三十年五月十日、曹洞宗宮城県宗務所寺族会総会にて、「震災を語り継ぐ」声なき声をつむぐ」というテーマで、東北大学特任教授、齋藤幸男先生の講演会がありました。

大震災発生時、石巻西高校の校長をなさっていた先生は、その日の夜から四十四日間避難所運営の中心となり、七百名のご遺体を安置し、生徒の心のケアにも尽力した経験を話されました。



震災を「語る」「継ぐ」ことの重要性

第十教区 皎善寺寺族 工藤 敏子

るため、予想しなかった事がたくさん起こります。そんな時、生徒達がイヤな顔をせず、手伝ってくれました。生徒達は自分が必要な存在だと感じると動くのです。生徒達だって、その心は深く傷ついていたが、互いに励まし合い、高め合い、疲れてへとへとになった大人達を逆に支えてくれました。生徒達がいなかったら、避難所運営はできなかつたろう。経験のある大人



にもわからない事に、経験のない子どもが気づく事があります。トラウマのある子が、それによって成長します。子供は夢や希望を強く信じられ、前に進む力を持つています。避難していた人々を元気づけたのは、生徒の話し声、屈託のない笑顔でした。震災を「語る」のは体験した者のつとめです。「継ぐ」は聞いた者のつとめです。若者が若者に震災の記憶を伝え、後世に生かしていく事が重要だと話されました。

最後に、辛い映像やお話もたくさんありましたが、また違う角度から震災について考えさせられました。子供達の前に進む力に私達も希望の光を見た気がしました。素晴らしい講演会をありがとうございました。

合掌



石巻西高生徒作成
齋藤先生のもザイクパネル



研 修 会 II

平成30年5月11日 ホテルニュー水戸屋

講師 曹洞宗総合研究センター

専任研究員 宇野全智師

「シンガーラ経」の教えを学んで

第十七教区 虎溪寺寺族 鈴木佳代



二日目の研修会には、昨年引き続き宇野全智先生をお迎え致しました。今回は、「生きる力」の「釈尊の智慧」と題しまして、数ある「お経」の中から、お釈迦様が若者シンガーラに説いた言葉をまとめた「シンガーラ経」についてご講義頂きました。

私にとっての「お経」は、法要で和尚様方がお唱えしている特別なもので、それを身体に浴びることで邪気が払われていくに違いないと思っておりました。内容について深く考えたことはありませんでした。しかしながら、この講義を受け、今までの見方が変わりました。また、講義における先生の解説は大変分かりやすく、お釈迦様がシンガーラに教えを説く様子が頭の中で映画のように展開されていきま

この「シンガーラ経」には、両親や妻子との関わり、友・知人、そして、職場の人とのかわり、最後には僧侶・宗教者との関わりまでが事細かに書かれています。しかもそれが、日常生活の一つ一つのシーンにおいてどのような心持ちで行えば良いのかが示されておりました。特に素晴らしいと思った事は、この教えが二千五百年以上経っているにもかかわらず、今の私たちの生活にしっかりと当てはまっているということです。

人との交流が盛んになり関わる事が多くなる分、気を付ける必要が増えていきます。日常に埋没していく中、本当にやるべきことは何なのか分からなくなってしまう時、このお経に書かれているように一つ一つの関係性をきちんと正しく保つことができれば、私たちの心の中も整理され、生きやすくなるのではないかと思います。私利私欲に満ちたこの世の中で、

いかに平常心を持ち惑わされずに生きていくか、本当に難しいことです。

一方、正しい教えの下、お寺で多くの方々に見守られながら生きていくことに私自身幸せを感じております。お釈迦様の教えが普遍的であるように、檀家さんにとってのお寺も、いつ来ても変わらぬ良い場所であるようお手伝いできればと考えております。

今回の研修会に参加し、また一つ勉強させて頂きました。有難う御座いました。

合掌



寺族表彰を受けて

第二教区 林香院寺族 門 脇 う た



この度は永年寺族表彰を賜りまして、ありがとうございます。

ございました。支えて下さった皆様、共に歩んできた家族に感謝いたしております。

いろいろな事があつた五十年が思いおこされます。私はこの寺で生まれましたので七十五年もこのお寺で過ごした事になります。寺族になつて五十年、ずいぶん長い年月がたつたものと感慨深い思いがいたします。

三人姉妹の真中で、のほほんと育つたものですから寺族になつた時は、何とも出来ないのに大変な事になつた”と思ひました。とても苦手な分野だつたからです。父の代は、お寺も割合のんびりと静かな生活でしたが、主人は「お寺

は生きていく内から来る所」と言つては、皆様がお寺に集まる事を次々と考えるものですから、毎日がめまぐるしく過ぎて、ついでに行くのが一杯の日々でした。

私は私で、立派な寺族にならなければ”と、勝手に理想を描いて、そうならない自分にずいぶん悩んでいたと思います。でも、檀家さんとも友達の様に気さくに接している主人の側に居て、私は「こうでなければならぬ」と言う事はないのかなと思える様になり、少しずつ気が楽に過ごせる様になりました。

それから私にとりまして、とてもめぐまれました事は、何年かに渡つて、若い和尚様が修行に來られて、毎日を共に過ごして学ばせていただいた事です。今はそれぞれに御

住職様になられ、その立派な御姿を拝しましてとても嬉しく、心から感謝いたしております。

この様に、全ての事が周りの方々の協力と支えがあつて

こそで、寺族としても永年無事に過ごしてこれたのだと思ふばかりです。とても幸せな人生だつたと振りかえつております。ありがとうございます。合掌

平成三十二年度

曹洞宗宮城県宗務所寺族

表彰者名簿

☆昭和十八年一月一日〜昭和十八年十二月三十一日生まれのお寺族
☆右記以前生まれの未表彰寺族

教区	寺院名	氏名
1	保壽寺	伊藤 添美
2	林香院	門脇 うた
3	龍澤寺	清野 千代子
10	龍昌寺	北川 きぬ子
15	清水寺	荒 古ウ子
17	起雲寺	菅原 洋子

(曹洞宗宮城県宗務所褒賞規程第一条第二項該当者)

半生期の歩み

第十五教区 清水寺寺族 荒

ユウ子



私は昭和四十年、ご縁が

ありまして清水寺に嫁いでより早五十二

年になります。過疎地に建つお寺は檀家さんが五十二軒と少なく、夫と共働きをしながらも二人の娘に恵まれ幸せでした。夫は勤めていた会社を退職し、運送会社を設立、自ら長距離運転手として働きました。

そして、当時の住職だったお舅さんが他界し、さらにお姑さんも他界し、夫は住職を継ぎ檀務の傍ら懸命に働く日々となりました。私は、お寺の留守を守りつつ会社の事務員として働きました。

会社設立から三十年、住職である夫は六十歳を機に会社を廃業し、平成十二年清水寺本堂を再建、更に平成十七年

には兼務地松林寺本堂の再建を行いました。

大役を終えほっとしていた頃、東日本大震災に遭いました。清水寺は高い丘に建っておりませんが、一瞬にして波に飲み込まれ、私は悪夢としか思えず呆然と立ちすくみました。築十年目の本堂は、欄干の位置まで水が入り流されまじら襲ってきた津波により流出してしまいました。屋根にすがり助けを求めて手を振る人を見ましたが、助けられない自分に心が痛みました。夕方になり、お寺に避難してきた方達と高い山間に建つ家へと移動しました。津波が幾度も寄せ来る中、ミシミシと音を立て動く瓦礫に足をとられ、命からがら向こう岸に辿り着きました。そこにはすでに大勢の人達が避難しており、口々

に恐怖を語っていました。

翌朝からお寺に行き、本堂内の瓦礫や、砂混じりの重い泥の撤去が毎日続き、先の見えない作業に疲労が限界に達した頃でした。要請していた災害派遣の人道支援があり、ボランティアさんに支えられながら頑張ることができました。何とか片づけを終え、清水寺本堂修復に向け、七月二十日には東司も完備して早々に復興を遂げました。工費は、お陰様で本庁より戴きました見舞金と一部住職の資金等で賄うことができました。

震災翌年、自宅の再建を計画し役所に申請すると、危険区域なので再建できないと言われました。自分達は難民なのかと思われ、悲しくて涙が止まりませんでした。しかし、地元の高台の戸倉に造成が決まり、再建に着手することが出来ました。夫は、震災後様々な問題を抱え、困難を乗り越えてきましたが、脳梗塞を再発し、入退院を繰り返すよう

になりました。そして自立再建中の我が家の完成を待たずこの世を去ってしまったのです。

目まぐるしく繰り返される「生病老死」の中で、今年九月七日、住職だった夫の遷化から二年がたちました。三回忌法要を迎えるにあたり、歴代住職の墓石を建立致しました。本堂から墓地に移動する際、夫の遺骨を抱き、「これまで良く頑張ったね」と心から感謝の言葉を述べて納骨致しました。

振り返れば、苦労に苦労を重ね精一杯生きてきた夫に、私は毎日お寺に通い、住職を補佐し仕えてまいりました。「あの震災さえなかったら」と思わずにはいられません。今は健康に留意し、今後も後任住職を補佐し、心穏やかに歩んでまいりたいと存じます。

合掌

寺族物故者供養

(平成三十年五月十日) ホテルニュー水戸屋

義母を偲んで

第六教区 福應寺寺族

佐藤まさ子



ち多くの蔵書に囲まれて読書の日々を過ごし、音楽鑑賞も大変好きな義母でした。特にフルートの音色を好んでいましたが、そんな在りし日の義母が詠んだ短歌を紹介します。

夢にきく

亡弟の吹く

フルートの

今宵の曲は

「アルルの女」

本を読む

人に憧れ

嫁ぎ来し

六十五年

歳月を思ふ

嫁いで慣れない農作業や戦争等の苦労話も沢山聞きました。が、持ち前の明るさと大らかさで乗り越えて来たのだと思います。

教区寺族会では初代会長として御住職様のお話を聞く会、精進料理を頂く会など楽しく活発な活動をしておりました。

「見聞皆わが師」この言葉を良く口にしていました。ある時に床の間の掛け軸にある言葉と解りましたが、実に座右の銘のように使い、折に触れ私の背中を押してくれた言葉でもありました。

お寺の生活に誇りを持ち、和尚様を尊敬し寺族として心豊かに歩んだ九十九年の生涯でした。

最後の合同歌集「角田鳳仙花」第三集に紹介された一文に「何時お会いしても穏やかでやさしい慈母のような人である。短歌を支えとした真摯

に生きた歳月を歌にこめられている。」(荒川記)と表された義母の作品を結びとさせていただきます。

散る花と

共に逝きたる

わが夫

さくら過ぎし方の

うららかな日に

夜明け待ち

悩む子抱きて

あぶくまの

岸边に船を

持ちしも遠く

(あぶくま短歌大会国土交通省仙台河川国道事務所長賞)

合掌

平成三十年寺族会総会におきまして、式典の前に「寺族物故者供養」が執り行われしました。亡き御寺族様方と合わせて福應寺寺族佐藤克子も皆様に手を合わせていただきましたことに、深い感謝の念を感じております。

昨年四月に大動脈解離となり突然の別れとなりました義母でした。昌學寺で生まれ育

謹んで御冥福をお祈り申し上げます



平成二十九年四月一日〜平成三十年三月三十一日御逝去

(敬称略)

教区	寺院名	氏名	死亡年月日
7	玉昌寺	千葉 ハナヨ	平成二十九年四月八日
6	福應寺	佐藤 克子	平成二十九年四月十一日
6	瑞雲寺	村上 淑子	平成二十九年五月二十九日
3	宝船寺	徳野 憲子	平成二十九年六月十日
2	金勝寺	渋谷 はな	平成二十九年七月一日
7	威徳寺	児玉 艶子	平成二十九年八月十日
9	石雲寺	宮本 輝子	平成二十九年十一月三日
12	洞泉院	鈴木 リノ	平成二十九年十一月八日
8	正来院	小野崎 和子	平成二十九年十一月三十日
4	紹楽寺	佐藤 タミ子	平成三十年一月十二日
14	長承寺	田村 薫子	平成三十年二月五日
17	福現寺	犬飼 精子	平成三十年三月二日
8	大祥寺	谷津 江つ子	平成三十年三月七日

当該者寺院からのお申し出により、掲載されていない物故者の方もいらつしやいます

もんじゅ 文殊さま



◆名前 文殊菩薩

◆本名 マンジュシユリ

【名前の由来】

文殊師利・曼殊室利とも表記します。「マンジュ」には妙なる、「シユリ」には吉祥という意味があり、「妙吉祥」「妙徳」「妙音」とも訳され、仏の智慧をあらわしています。

もともとは、実在した人物で舍衛国のバラモンの子といわれています。

【特徴】

髻を結び、瓔珞、腕釧、臂釧等の装身具で飾り、条帛を着け、右手に剣を握り、左手には梵篋(経巻)を載せた蓮華を持ち、獅子の台座に坐っています。経巻は智慧の象徴、剣(智剣)は

智慧が鋭く研ぎ澄まされているさまを表しています。

この剣は戦闘のための武器ではなく、迷いのもとである煩惱を断ち切る法具です。

そして獅子は、百獸の王として怖いものが何もないことを意味しており、またその智慧の勢いが盛んであることを表現しています。

曹洞宗では、剃髪して坐禅を組む僧形の文殊さまが知られ、「聖僧さま」と、お呼びします。そのお姿は、清純にして執着がなく、何にもとらわれないさまを示しています。

【現住所】

僧堂、坐禅堂、お釈迦さまの隣。中国山西省清涼山(五台山)など。

【担当】

坐禅堂の本尊さまとして、修行者を見守っています。

【真言】

おんあらはしゃのう

「寺族研修」第38号より

寺族中央集会報告



平成30年9月6日～7日
曹洞宗宗務庁主催 大本山永平寺

参加者

第10教区 西林寺寺族 佐藤 松江
第17教区 虎溪寺寺族 鈴木 佳代



一 日 目

第十教区 西林寺寺族 佐藤 松江

九月六日、大型台風の影響を危惧しておりましたが、その心配もなく、無事に永平寺に入りました。辺りは、鬱蒼とした杉木立に囲まれ、荘厳で歴史の重みを感じ、一瞬にして身の引き締まる思いが致しました。

午後一時より法堂にて、全国から百二十三名が参集し、寺族中央集会が開催されました。宗務総長老師からの御挨拶があり、当日早朝の北海道胆振東部地震を案じ、お見舞いのお言葉を述べられました。記念撮影後の基調講演は、「気まぐれ八百屋だんだん」の店主で歯科衛生士でもある近藤博子さんによる「全ての人々を思いやる地域へ」でした。八百屋店主の近藤さんは、買物客の会話から多世代の悩みに光を当てボランティアを募り、子供たちの為に宿題を見る「ワンコイン寺子屋」、

下校途中に安心して立ち寄れる「みちくさ寺子屋」を開催しました。その折、家庭の事情で食事の満たされていない子供の存在を知り、温かいごはんを食べられるようにと「子供食堂」を始めました。因みにこのネーミングの生みの親は近藤さんなのです。多数の企画の総称を「気まぐれ八百屋だんだん」とし、子供だけでなく子育て中の母親、会社帰りの若者、一人暮らしの高齢者など多様な人が気軽に立ち寄り、地域に溶け込ん



だ交流の場となつていきます。彼女の活動理念は、目の前に困っている人が居れば、その人に寄り添う事、そこから全てが始まり、人が繋がり、繋げていく事です。昨今、社会環境が整い便利になった分、人の繋がりが希薄になり、人に頼り難い社会となつていま

す。よって、人に温かな光を当てた居場所の必要性を痛感し、お寺もその様な寄り添える場所でありたいと思えます。その後の「班別会」では、他県の寺族方々との有意義な意見交換があり、大変参考になりました。

合掌

二 目

第十七教区

虎溪寺寺族

鈴木

佳代

二日目、二時半振鈴。洗面・布団片付け作務・暁天坐禅と続き、夜明け前の薄闇の中、皆黙々と階段を登り法堂へ向かいました。遠くに聞こえる太鼓と鐘の音、大梵鐘の響きが荘厳で印象的でした。

法堂での朝課が始まり、永平寺参拝祈念「朝のおつとめ」という経本が配られ、和尚様方と共に「五十七仏」や「大悲心陀羅尼」などのお経をお唱えしました。これは私にとつて大変貴重な経験となりました。朝課を終えると、係の雲

水様の案内により諸堂拝観を致しました。

小食後、昨日に引続き各部屋で班別会、九時には大講堂にて全体会が行われました。全国から集まる寺族の活動事例や抱える悩みなど、多岐にわたる内容の報告会となりました。

寺族活動の点から申し上げますと、熊本県のある教区では次世代の若い寺族育成のために「女子会」を編成し、お姑さん方が若い方の出席しやすい環境を作り出す努力をし

ているとの事でした。また、兵庫県のある教区では、寺族会に参加しにくくなっている七十五歳以上の方を敬老対象者とし、三役でお祝いを持つてまわっているそうです。この活動は、話す機会の減っている年配の寺族さん方に大変喜ばれているとの事でした。

それから、寺族が自身の生きがいを持ち、お寺で生活している姿を見せることが、若手育成と檀信徒のお寺に対する関心につながるのではないかとこの意見もありました。

全体会の最後に教学部長成田老師より総括があり、寺族の皆さんにはお寺での生活を楽しんでほしいとお話し下さいました。また、ご自身の経験から、お寺を地域に開放する大切さと人が寄り合う場所であることの大切さを説かれました。

次に、宗務庁の各部長老師から事前質問への回答があり、曹洞宗寺院の三割が過疎地にあるという現状を知らされま

した。人口減少や寺離れなど信仰心が薄れつつある時代であるからこそ、お寺では茶菓などの接待を檀信徒への「布施」と捉えて取り組んでいくのが良いとのご指導を頂きました。

始めは不安な気持ちで参加した中央集会ですが、帰りには班のメンバーで和氣藹々と写真を撮るなど楽しいひと時となりました。

最後に、この集会に参加させて頂きました事に深く感謝を申し上げます。

合掌



平成三十年度曹洞宗東北管区寺族会研修会

平成三十年九月四日・五日
岩手県花巻温泉「千秋閣」

第二回曹洞宗東北管区 寺族会研修会に参加して

第一教区 清涼寺寺族 神 作 喜代乃



〔期 日〕

平成三十年九月四日・五日

〔場 所〕

岩手県花巻温泉 千秋閣

〔参加者〕

東北六県八宗務所寺族

一三〇名

(宮城県内寺族三十一名)

各宗務所役職御老師・職員

三十六名

講演会は「ちよつと楽にな

る生き方」と題して、元NH

Kプロデューサーの石川昌孝

氏が『永平寺修行の四季』や

『永平寺一〇四歳の禅師』の

番組制作を担当された折に、

宮崎奕保禅師との会話の中か

らご自身の心に残る“お言葉

”を取り上げてお話されまし

た。私たちも耳にしたことの

ある内容の話でも、テレビ番

組制作という世情に影響力を

持つ方が、とても穏やかな見

方をされていることを知るこ

とが出来、安心して聴き入り

ました。

「今、寺族として何をして

いますか、何ができるでしょ

うか？」との共通テーマによ

る十グループの分科会もあり、

翌朝各グループからの報告で

は“環境美化・梅花講や婦人

会・後継者” “少子高齢化の

時代背景” など結論は出ない

ながらも、“宗制を知る、

宗報を読む” “管区寺族会で

勉強させてもらって有難い”

との発表には腑に落ちるもの

を感じた人が多かったのでは

ないでしょうか。

開講式が曹洞宗東北管区長

海野義清老師（岩手県宗務所

長）を導師に行ぜられたこと

は有難く、さりげない風情の

“良寛さま” 奉詠に感涙し、

雫石郷土芸能伝承活動の方々

の歌舞による歓迎セレモニー

は拍手喝采でした。また夕食

会の冒頭には北上市の黒岩鬼

剣舞が舞台上の三尊仏の御前

に奉納する如くに披露され、

参加者一同は固唾を飲んで見

守りました。この研修会を準

備された岩手県寺族会の方々

の“東北はひとつ”との厚い

気持ちに感謝し、参加出来た

ことを誇りに思います。

今後このような自主的な

集いが継続され、次世代へ繋

がることを祈っております。

合掌



「ちよつと楽になる生き方」

禅師様のお言葉に接して

第十三教区 崇徳寺寺族 辻 るみ子



「東北はひとつ」の大テーマのもと「第二回曹洞宗東北管区寺族会研修会」が花巻の地で開催されました。

開式に先だち全員で黙禱をささげました。

寺族様方による、すみきつた声と、鈴鉦のすずやかな音色の「良寛さま」の奉詠に心がいやされました、又、心のこもった歓迎のセレモニーをいただき、いよいよ講演がはじまりました。

講師の石川昌孝氏は、「永平寺・修行の四季」や「永平寺一〇四歳の禅師」を制作した方で、禅師様にうかがったお話よりということ、書ききれない程の心にずしんとくるお話でした。その中で、特に忘れられない禅師様のお言葉を、紹介したいと思います。

『自然は、立派やね。私は日記をつけておるが、何月何日に花が咲いた。何月何日に虫が鳴いた。ほとんど違わない。規則正しい。そういうのが法だ。だから、自然の法則を真似て人間が暮らす。人間の欲望に従っては、迷いの世界だ。人情によって曲げたり縮めたりできないもの、人間が感情によって勝手に変えられない自然。そういう生活をして、生きておられたらいいね。』

石川氏が暁天坐禅の取材の際に発見した自然の法則。坐禅が終わった瞬間、戸があいた瞬間鳥が鳴き出す、朝を知る。自然の中にある修業道場・永平寺の魅力を語っておられました。

禅師様のお言葉を映像の世界で表現して下さっていると思いました。

雪のお山、雲水さん方の托鉢：映像の感動の記憶と、禅師様のお言葉を私なりに少しでも理解しようと：何度でも拝聴したい講演でした。次回はどうぞ一人でも多く参加されますことを願いたします。

合掌



第2回曹洞宗東北管区寺族会研修会

教 区 だ よ り

〔第3教区〕



思いを継いで

第三教区 東光寺寺族
吉岡 久美子

第三教区寺族会は、仙台東部、利府、多賀城、塩釜、松島、七ヶ浜の十六ヶ寺の寺院寺族で構成されています。

行事は、毎年、教区寺族総会が開催され一年が始まります。会場は、各寺院輪番制と決め、当番寺院の住職様のご協力をいただき、本尊上供から始まり総会・各方面の報告・意見交換・人権学習と会は進みます。年に一度、最も人数が集う会なので、その後の懇親会も和気あいあい盛会となります。

東日本大震災以降、お休みをしていた移動研修会も三年前から、一泊研修会として再び始める事が出来ました。

一年目は、東京別院長谷

寺を拝観させていただき、美術館や歌舞伎を見学しました。

二年目は、富山県高岡市の瑞龍寺の近世禅宗様建築の代表作とされる仏殿・法堂・山門の三棟を拝観し、高岡大仏、鋳物工場などを見学しました。

三年目となる今年は、長野県小布施町岩松院と雨降りの中、善光寺を拝観してきました。

この移動研修会では、日頃ゆっくりと話しをする機会の少ない寺族が集まり、寺院拝観はもとより、どこで何を食べても料理のメニューや各自の工夫などの話しが広がっていく事も楽しみのひとつとなっています。

又、帰路では「来年は、どこに行きましょうか？」との相談も大変盛り上がります。

以前、先輩方が、寺族会に出席の出来ない子育て中

の寺族の為に「曹年寺族会」を発足した時期がありました。今では会自体は失くなってしまいましたが、その思いを受け継ぐ為に、各寺院の若い寺族が順番で計画しています。今までは、プリーザーブドウフラワーの作成・着物の小物作り・お寺ヨガ・生け花など、その他、趣のある様々な分野のものとなります。

各自、企画する事の大変さも、よく理解しているのので楽しく参加し、とても満足する有意義な研修会となっています。

教区で法要などの行事の際には、お互いに協力し助け合う事が必要となります。その時の為にも、普段から寺族同志で心を継いで、長く続いていく教区寺族会であってほしいと願います。

合掌

教 区 だ よ り

〔第14教区〕



「眼蔵会」に参加して

第十四教区 玉秀寺寺族

佐竹 薫

県北に位置する登米市に、二十二ヶ寺で活動している十四教区です。

四月の総会に始まり、六月の教区主催「禅・文化講演会」の手伝いと、九月の「国立東北新生園」での慰霊法要参列、十二月の教区梅花奉詠大会協賛、年明けの新年会が年間行事で、加えて日帰り又は一泊研修会を行っております。今年は、いつもより早めの七月に行うことができました。

以前、「禅・文化講演会」において頂いた、前永平寺布教部長である渡邊宣昭老師の新潟県東龍寺様において、「眼蔵会」が開催されるということ、二年に渡りみんなで一針一針手作りし

た絡子をかけて参加いたしました。

折しも台風がそれた曇り空の中、山間にひっそりと立つ東龍寺さまは、とても趣のある佇まいでした。

開講式から始まり、坐禅堂にて入堂の拝、この時ご住職の渡邊宣昭老師と一人一人挨拶を交わし、宮城からということで労いのお言葉をいただきました。

行事を持つ際の御寺族さまのご苦勞を、私達は皆頭の下がる思いで見えてまいりました。

主テーマの「正法眼蔵」のお話は、駒澤大学教授角田泰隆先生が講師でした。先生には以前、講演会にいらして頂いた経験もあり、難しい講話ではありましたが、とても実りある研修になりました。

他の御寺院様を見たり、

眼蔵会に参加させて頂いたりすることは、普段経験できることでは無いので、大変貴重な体験でした。

一泊研修となると参加者は少ないですが、日帰りは一泊を交互に行ったり、総会、新年会などで交流を深めております。

縁あって、寺族として同じ教区にいる私達ですので、これからも楽しく研修していければと思っております。

合掌





御詠歌に親しみましょう

同行御和讃

(一) 同行御和讃

おなじ仏の御子として
むすぶ心の浄き友

互いに励まし いたわりて
同行同修の道をゆく

(二) 日々につとめを果たしては
夕べにおもう仕合せよ

教えの一つ一つこそ
くまなき慈悲の光なり

(三) 行く手はるかを見わたせば
道の真実はすぐ近く

互いの胸にあるを知る
同行同修のよろこびよ



「寺族安名の親授」をご希望の方は、

まず宗務庁へ申請書を提出してください。

※詳細は宗務庁にお問い合わせ下さい。

烏芻沙摩明王



◆名前 烏芻沙摩明王、
火頭金剛

◆本名 ウツチューシマ

【名前の由来】

音写された「ウツチューシマ」はげがれを焼き尽くすという意。それは、煩惱による、きれいな・汚いという身勝手な分別の心を燃やし尽くすということなのです。

【好きな言葉】

煩惱妄見の垢浄消滅を分別する心を燃除する。

【特徴】

もともとはヒンズー教の火神アグニでもあるともいわれ、炎を背負った姿で、激しい忿怒の表情。腕には煩惱と闘うための法具を備えています。

【現住所】

東司 (トイレ)

【担当】

東司を守護。かつては、異界・その出入口とも考えられていたこの場所を護り、安定させるために力を尽くしています。

【真言】

おんしゅりまりままりまりしゅしゅりそわか

「寺族研修」第38号より

平成30年度 各教区の行事

(各教区共通の総会、役員会等は省略 ○の数字は月を表す)

教 区	研修会 (日帰り)	研修会 (泊り)	協力・参加	禅をきく会	忘・新年会
1	①秋田県妙覚寺参拝 ②3教区合同研修会 (1、2、21教区)		⑨教区主催万灯会	自由参加 (チケット配布)	
2	②3教区合同研修会 (1、2、21教区)	⑥移動研修会 (金沢大乘寺参拝)			①新年会
3	①生け花教室	⑦研修旅行 (長野県善光寺・岩松院)	⑦教区緑陰坐禅会	②	⑫忘年会 ②新年会
4	⑥研修会 (東北歴史博物館 「東大寺と東北」)	⑩善光寺参拝と信濃路 いわさきちひろ美術館・ 高橋まゆみ人形館			
5	⑨岩手県正法寺参拝				①新年会
6	⑩会員交流会	③お雛様見学		⑩	⑫忘年会
7	⑫研修会	⑦移動研修会 (岩手県正法寺参拝)	⑨宮曹青バザー ②教区梅花奉詠大会		⑫忘年会 ②新年会
8	⑥研修会 (歴史博物館・瑞巖寺参拝)		⑫教区人権学習会		②新年会
9		⑩移動研修会 (金沢)	⑥教区親睦会 ⑦教区梅花奉詠大会		②新年会
10	①研修会 (松島円通院)	研修旅行 (田沢湖わらび座『ブッダ』鑑賞)			①新年会
11	④人権学習会 ⑫研修会				⑫忘年会
12	⑩移動研修会 (会津中田観音・福島方面) ②映画鑑賞会		⑦緑陰坐禅の集い ⑪教区仏教講演会		
13	⑥フラワーアレンジメント講習会 ⑩劇団四季「オペラ座の怪人」観劇				②新年会
14		⑦移動研修会 (新潟方面)	⑥禅文化講演会 ⑨東北新生園慰霊法要 ⑫教区梅花大会		②新年会
15	移動研修会			⑩	忘年会 新年会
16	⑨移動研修会 (函館高龍寺参拝) ⑫恵心寮訪問			②	②新年会
17	⑩研修会		⑨教区人権学習会	⑩	①新年会
18	⑤研修会(茶道) ①研修会(梅花)				①新年会
19	⑨SVA「絵本を送る会」 協力活動			⑩	⑫忘年会
20	⑥多賀城東北歴史博物館		⑦坐禅会		⑫忘年会
21	⑥東北歴史博物館「東大寺と東北」 ②3教区合同研修会 (1、2、21教区)	⑪移動研修会 (沖縄平和記念公園 宮城の塔参拝)			



平成30年度 曹洞宗宮城県宗務所寺族会総会並びに寺族宗務所集会・研修会
2018年5月10日 於 秋保温泉 ホテルニュー水戸屋

事務局だより

○第二回学習会

平成三十一年二月十四日(木)

— 宗務所 —

○二〇一九年寺族会総会・集会・研修会

二〇一九年五月九日(木)～十日(金)

— ホテルニュー水戸屋 —

曹洞宗宮城県宗務所寺族会

設立二十五周年記念式典

編集後記

北村 郁子	13教区	法山寺
石龍たき子	1教区	皎林寺
大友友美子	8教区	龍川寺
小黒澤美津枝	16教区	松岩寺
我妻 有	2教区	江巖寺
岸 恵代子	9教区	三古寺
須藤 幸恵	7教区	泉永寺
山川 裕子	11教区	法昌寺
辻 るみ子	13教区	崇徳寺
小松 豊実	15教区	長観寺

今年度は、第二回東北管区寺族会研修会に参加させて頂き、東北六県の寺族の方々と、交流することが出来ました。

この度は、おかげ様で、「第三十三号」を無事発行することが出来ました。

原稿を寄せて頂いた皆さまには、心より御礼申し上げます。編集にあたっては、一人でも多くの皆さまに読んで頂けるよう工夫してまいりました。今後とも皆さまの御協力、よろしく願います。

編集委員一同



役員改選について

二〇一九年は役員改選の年にあたります。会長は一ブロック(一、二、四、五、六、十九、二十一教区)より選出予定です。当該教区内の御寺族の皆様よろしくお願い致します。